

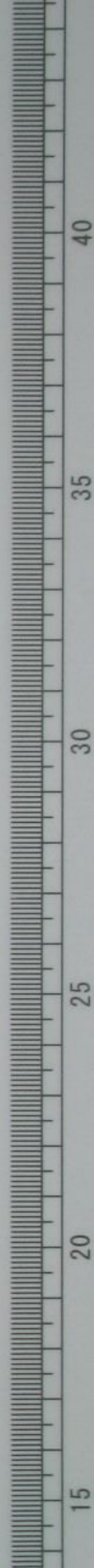


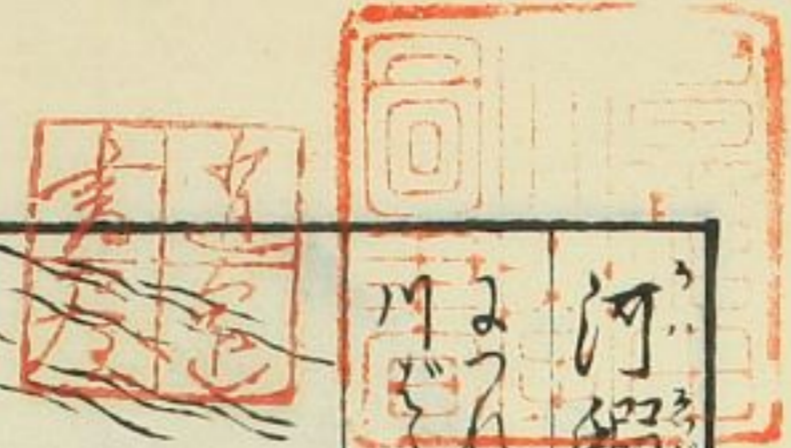
日本山海名物圖會

五

P
283
5

逍遙文庫
文庫6
2154
5

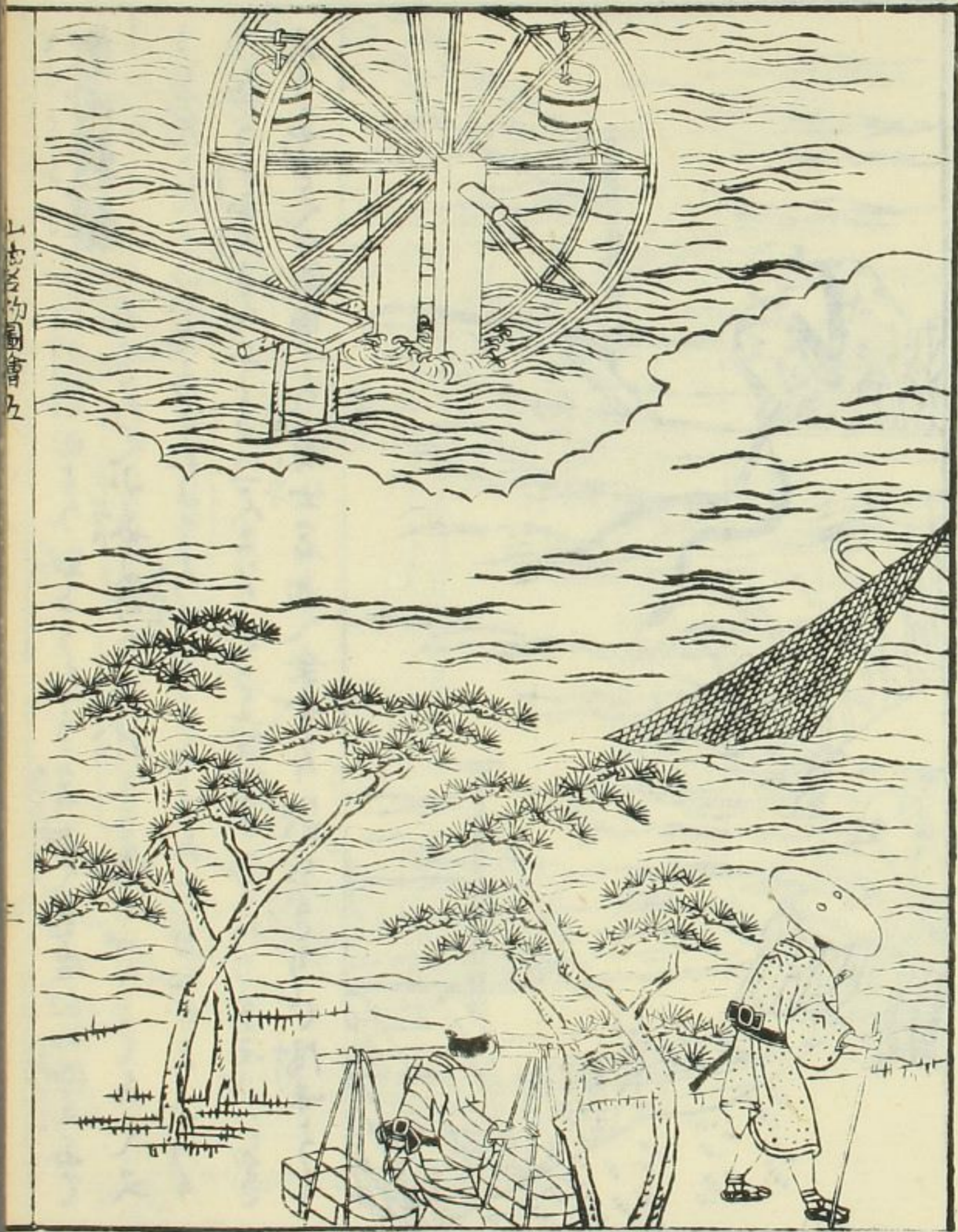




海老川

河

川海老と紙の業とがこれよりまき
 紙は入るてまきとて紙の業とがこれよりまき
 よつてあまるとまきとて紙の業とがこれよりまき
 川海老と紙の業とがこれよりまき

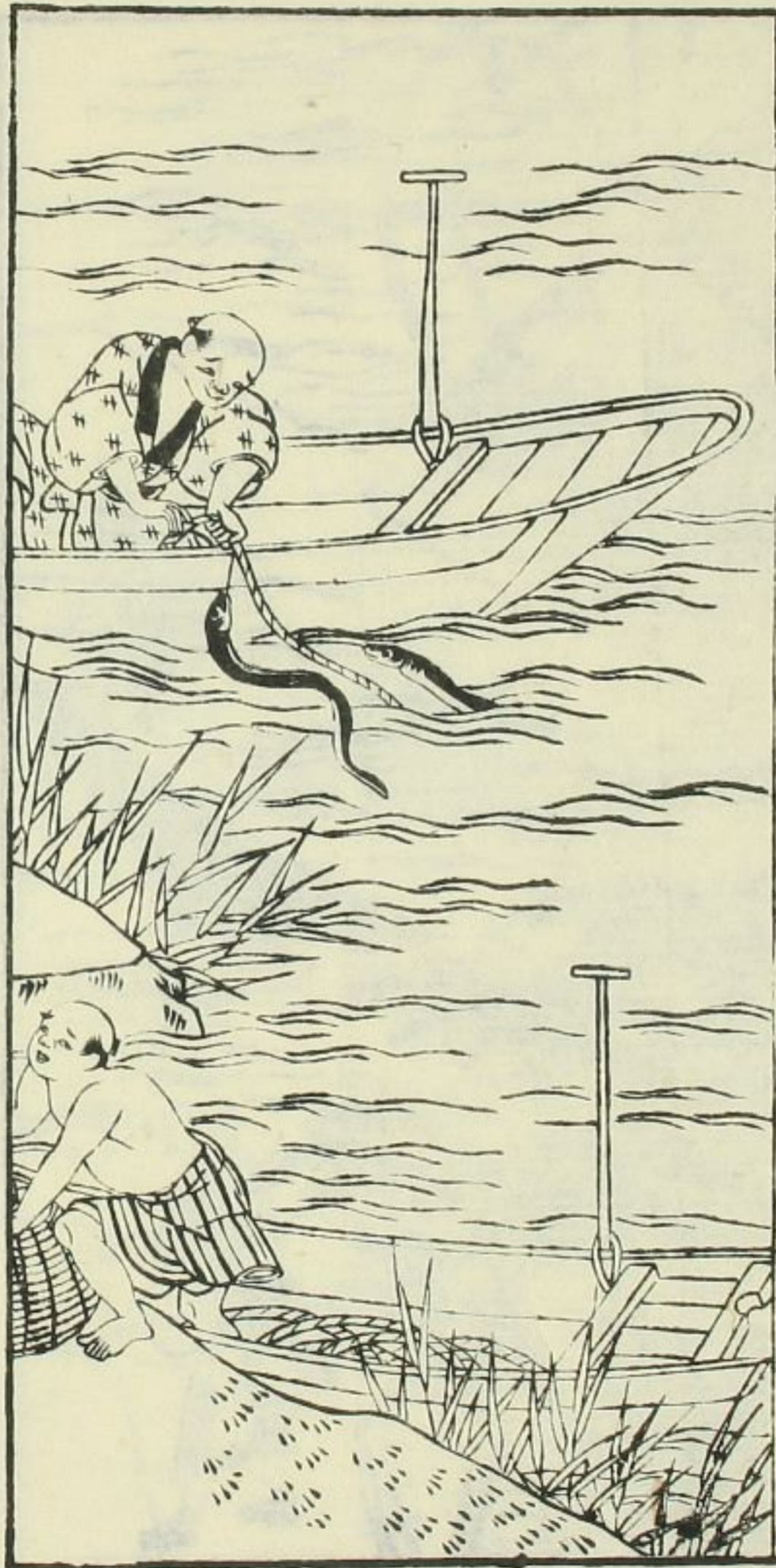
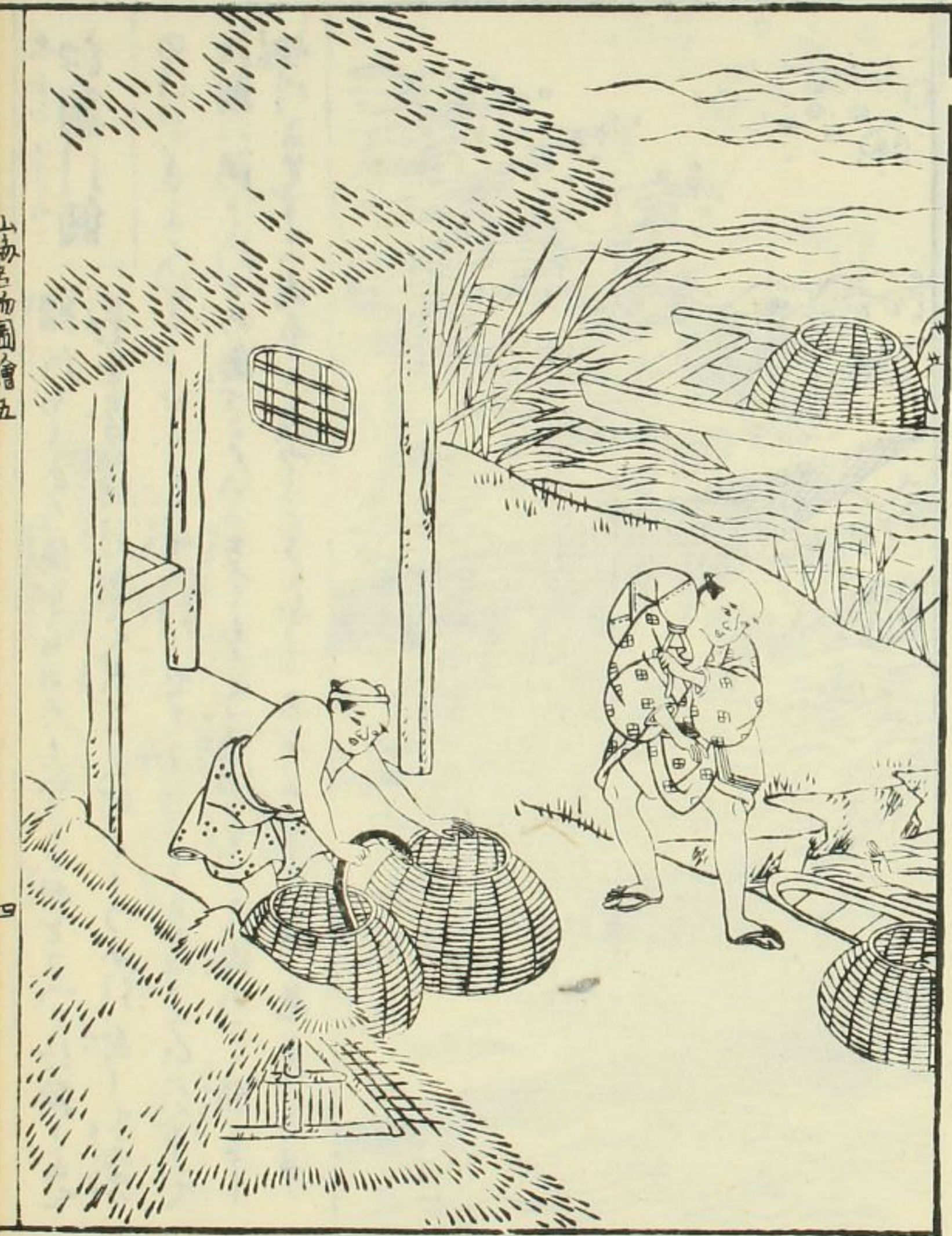


山本名物園會五



江鯉

鯉ハ河魚の才一上取村農本よまゝ鯉と魚の平とをこつり
 山本名物の名と名も中かも流堰の水車の何より任
 鯉一か貴魚とるこまうれもみ車此色よて細おこと江の内味より
 内割乃あれハ揚師えどりよ魚とたこと叶び鯉れ大小ハ一也也二年お
 と移んものこて年よりてさつとこ川年久くハつりかど魚ハおがき

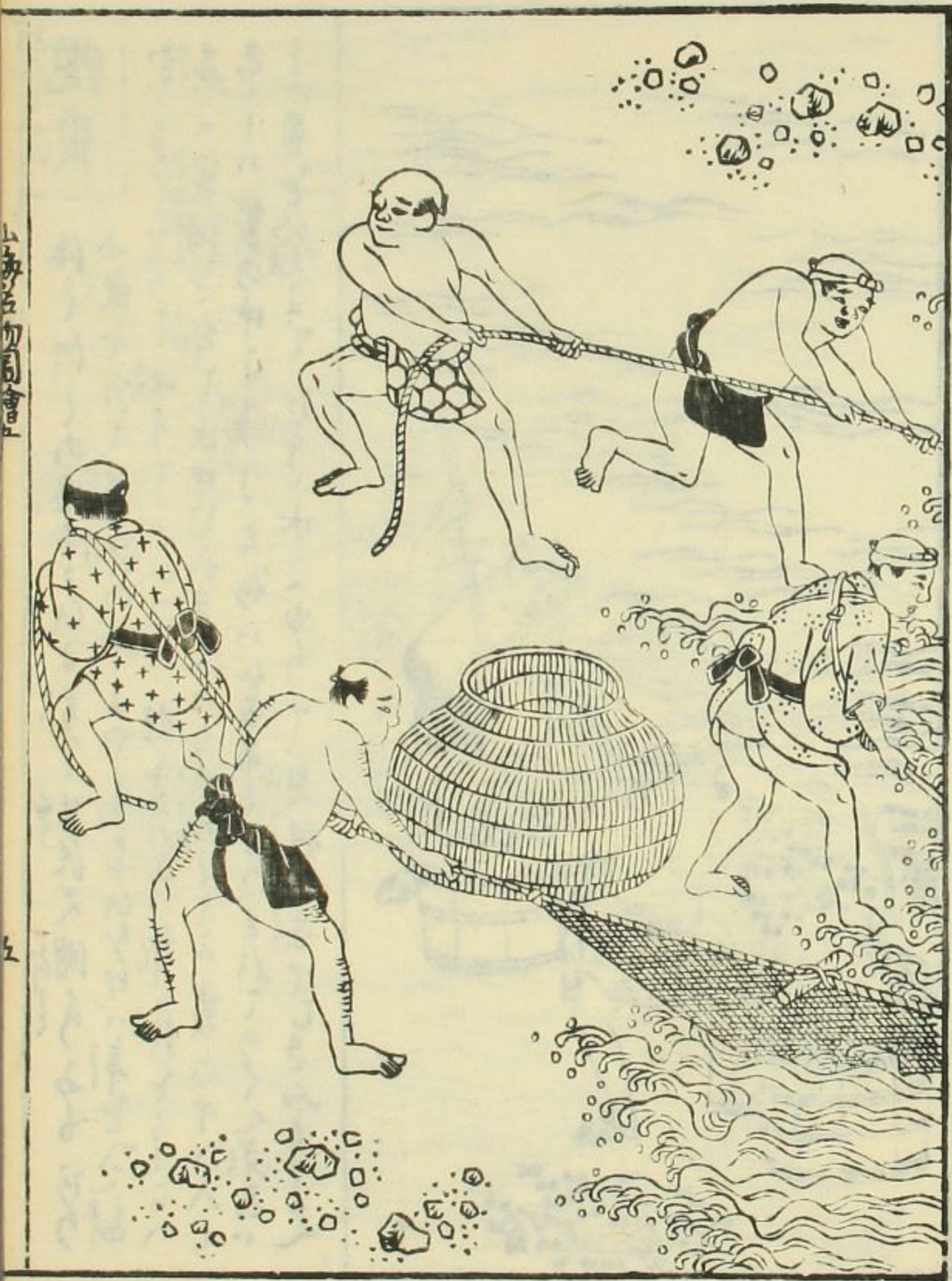


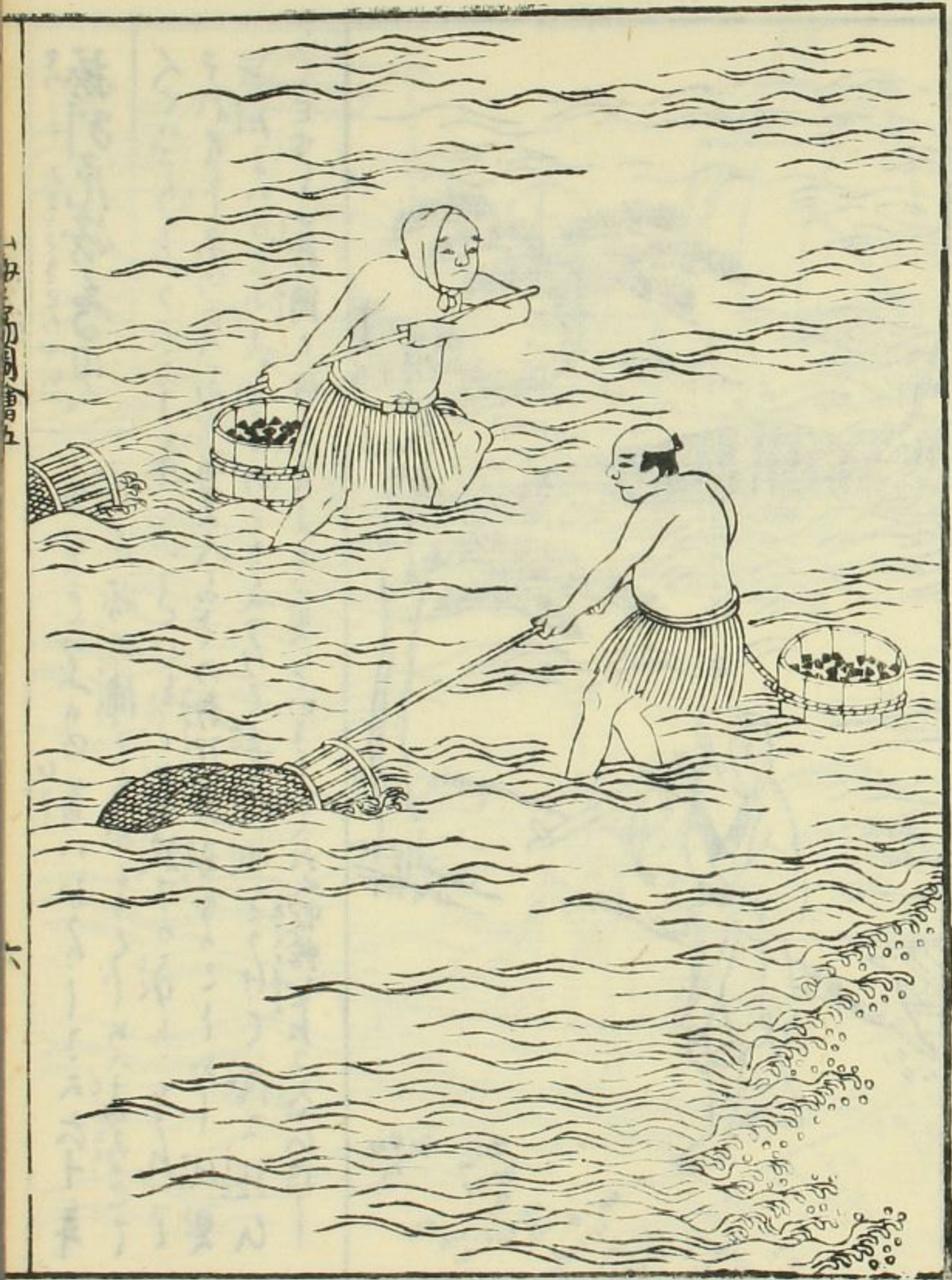
水田鰻鱺

江戸水田より出るうなぎ名物は近江の鰻もあて
 ねころろこ小舟のり釣針よく洗うづりてたぐ又
 うなぎたぐるといふおるこれよてお中とつておたぐの日向ぶらういつん
 うなぎもたまきんふくさいアまりのちさお人余あうりの余おいかあま
 大うなぎの水田より鯛出るゆへ余およりいおちまきりて風味よく

江朝の網

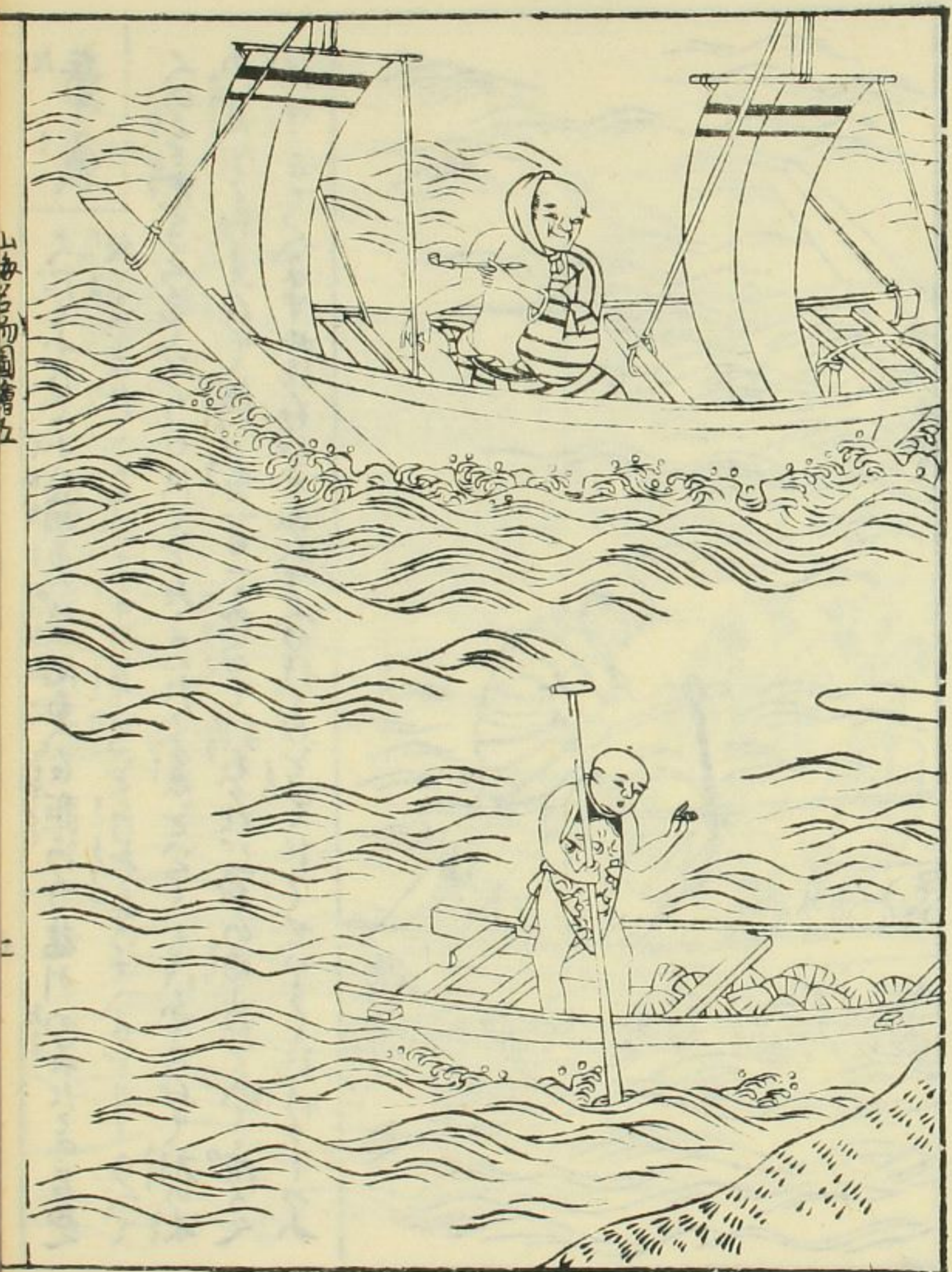
あきふひまわりの
 江朝の網
 細河のあつ海からあつちのまき時とすべて江朝とま
 じとまの地江のまきまきと町まのりまのりまのりまのり
 のまふひまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 江朝の河と川の遊ざうひまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 砂川まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり





規貝

海と河との境さういふまゝくせは又潮あみもなり
 小鮫をたれて泥池の中よりやいふかきハ年とへて
 おいさくちやうて味うといつり鮫とぬハハ竹をたて
 産る袋網と付て水中とかきてぬと云ふたは袋の中へ入て
 ちちハ袋の中より残りてぬハ袋あきゆりぬてのくち
 りハ貝と云ふてたさく水の中りて貝殻と去てむきやとす



江戸の国船

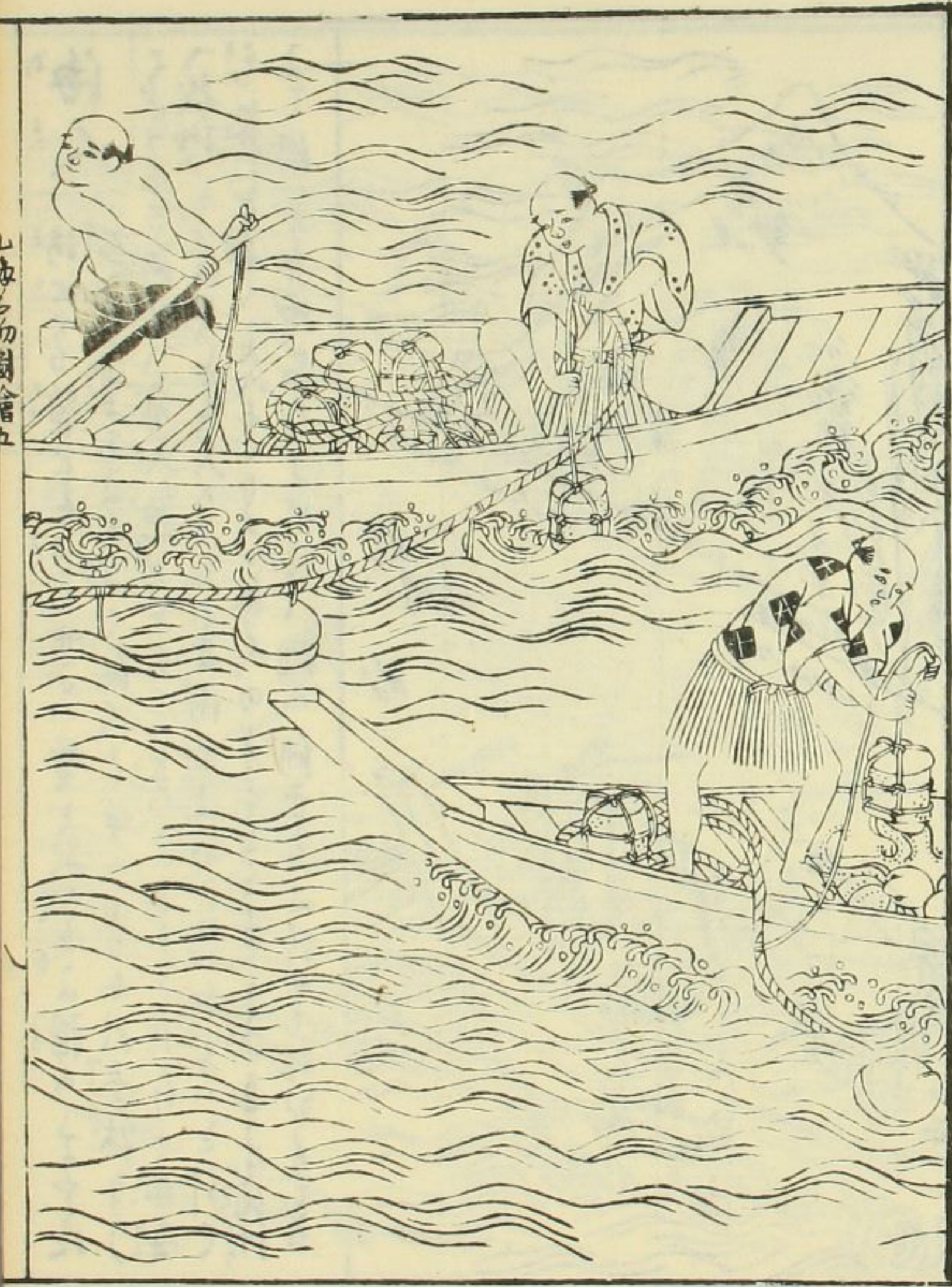


橋別尼崎を貝

くくいざりーグニ二十年このこいざりーグニ二十年
 せんち下子の貝ありのな美人あどの新花おハ羽ゆりことかーは貝
 とがよはうこあをよ母のそりよつけて毎ハハ帆さうけて解さし
 てせやくお網と砂とたよも貝とかさ入てお帆さうけて解さし
 せやくお網と砂とたよも貝とかさ入てお帆さうけて解さし

山崎名物

並



トボノカニノカニ

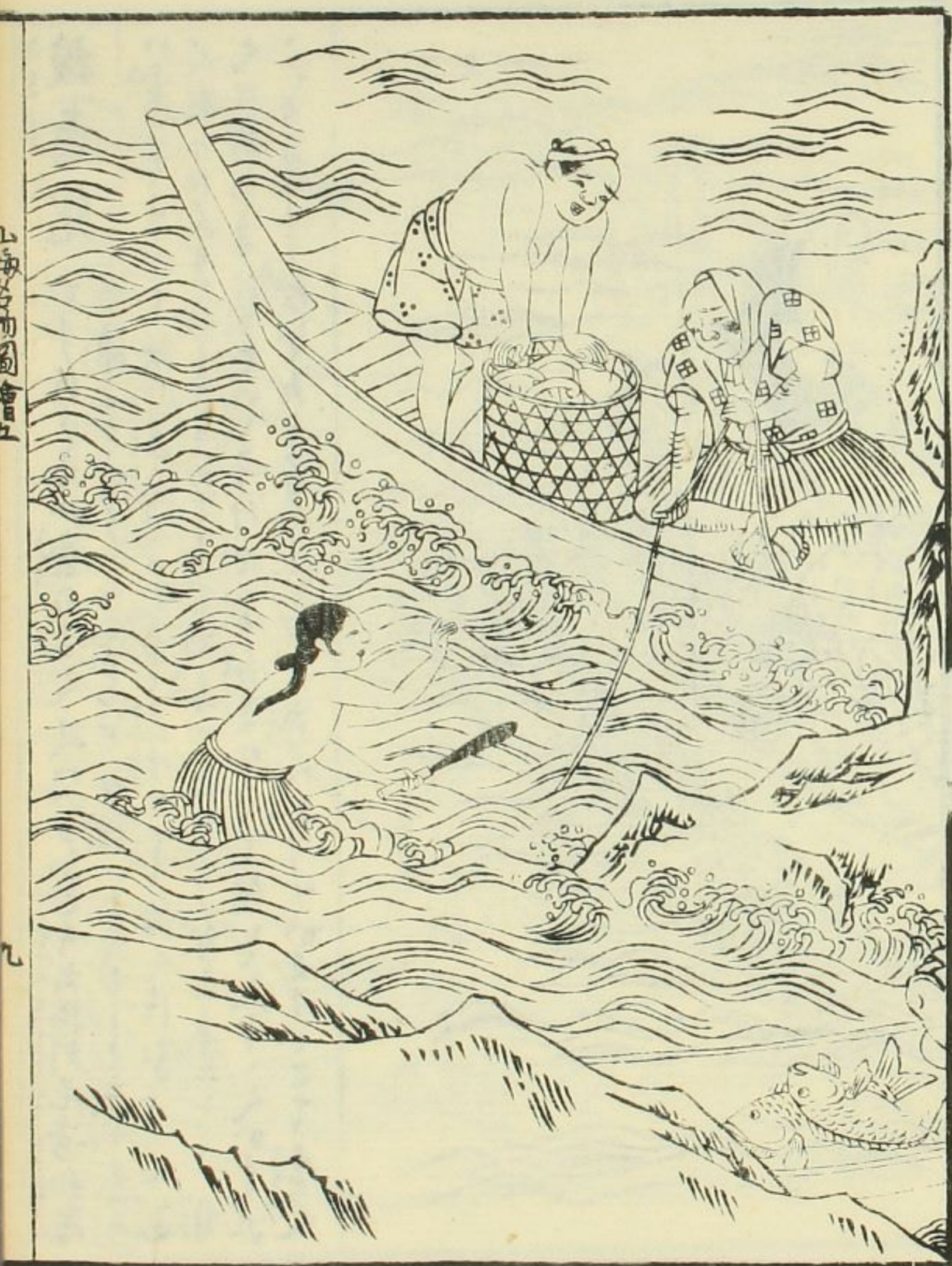


章魚

大だこ小だこハ捕魚望漁魚百距何り捕列の石たこの若也
 他るの大だこも大あり牛ると大表母の中へよとさうのりて
 人のあつちあつちさうのたことあよいたと兼といくもはあよつて相の本
 の相はとさよつて後一日一夜さて引あられががの固また入てあらん
 海中よて入ますおはけいあれすのほむとてたれせよくれはるとさ

トボノカニノカニ

トボノカニノカニ

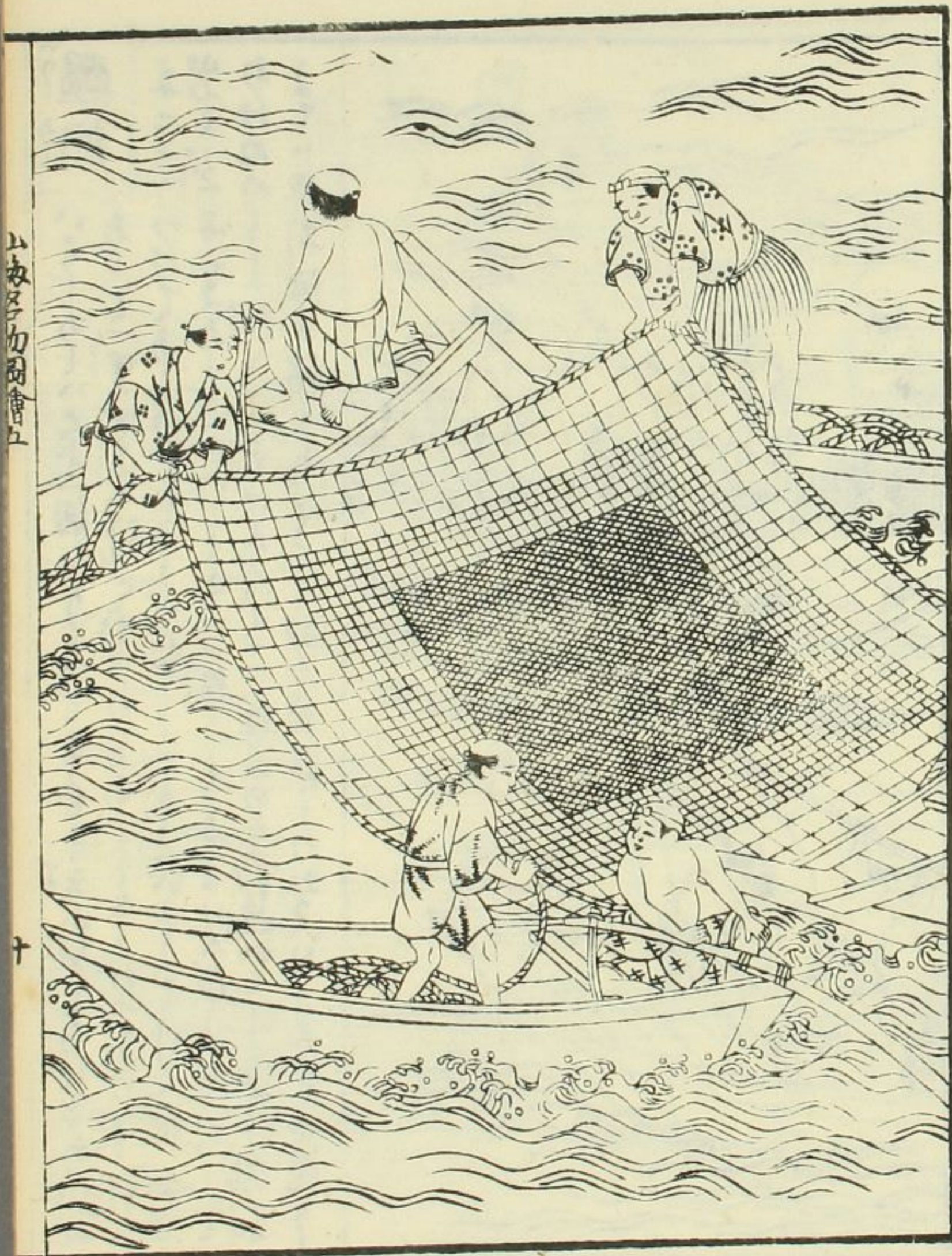


海人の船



海人 海士の船と云く世ハ船と云ハ女ハ海ノ舟ナリ
 船中ノ人カアマノ者ノ海人と云ハ男ノ舟ハ海ノ舟ナリ
 海ノ舟ハ船ノ中ノ人ノ海人と云ハ海ノ舟ハ海ノ舟ナリ
 海ノ舟ハ船ノ中ノ人ノ海人と云ハ海ノ舟ハ海ノ舟ナリ
 海ノ舟ハ船ノ中ノ人ノ海人と云ハ海ノ舟ハ海ノ舟ナリ
 海ノ舟ハ船ノ中ノ人ノ海人と云ハ海ノ舟ハ海ノ舟ナリ

海人の船



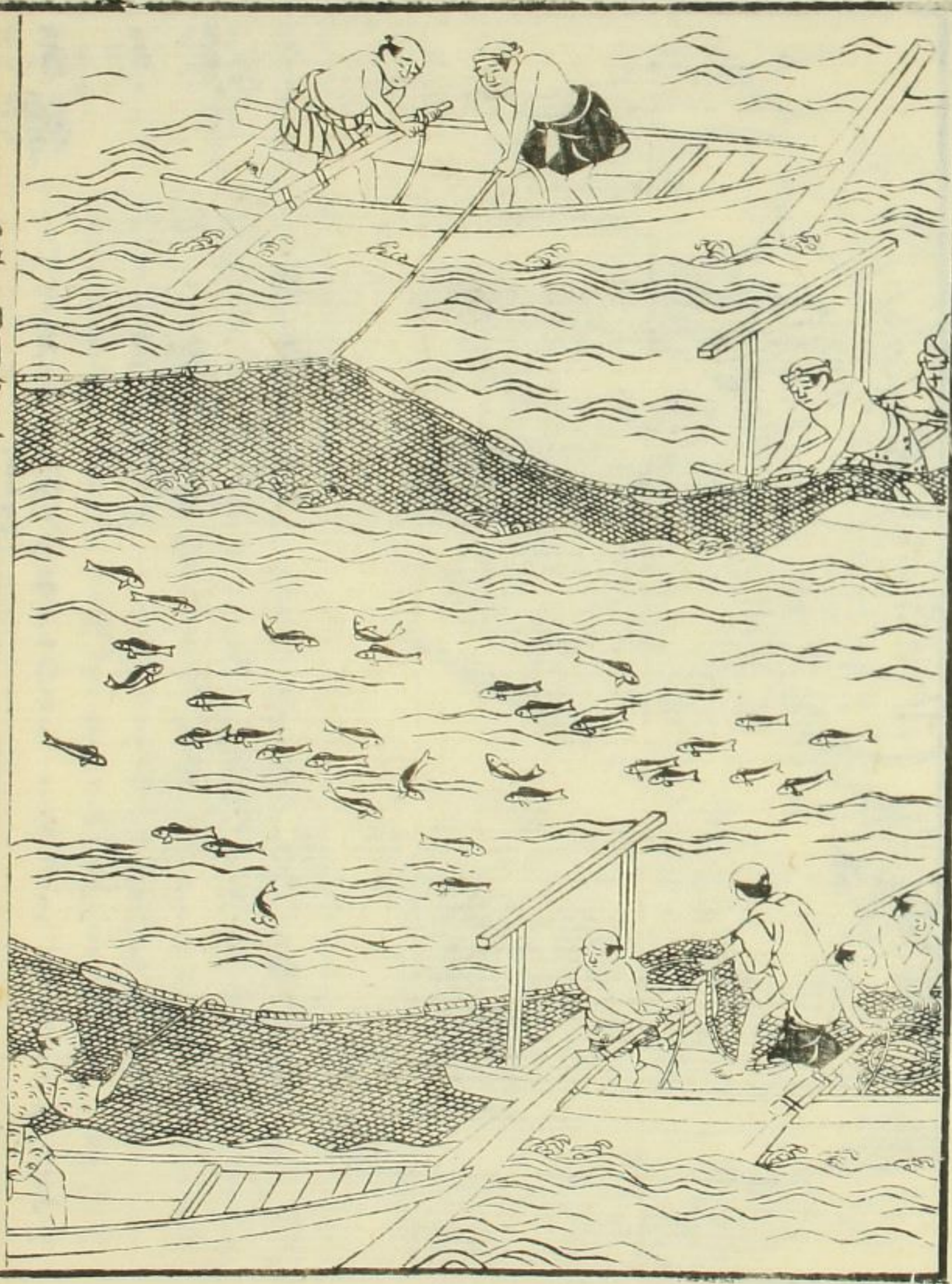
山崎子加回書五



つまナリ、
梭魚兒

かまほくと魚の子ん又いづふご有云橋州尼崎兵庫
の浦よて多くぬきそとぬ網いさあくと云おまり
い索よてあとも次ハ業は業よてあともけハきつ網くはあ十日
くお十人まあさうはとて網舟ニ被ありおよ毎こつり
くは艘の舟はりやいとつけらかおまりて網と入るこかま
ごとと突トけとぬきせんでらつと市ハあつてあますごとして
あつて

山崎子加回書五

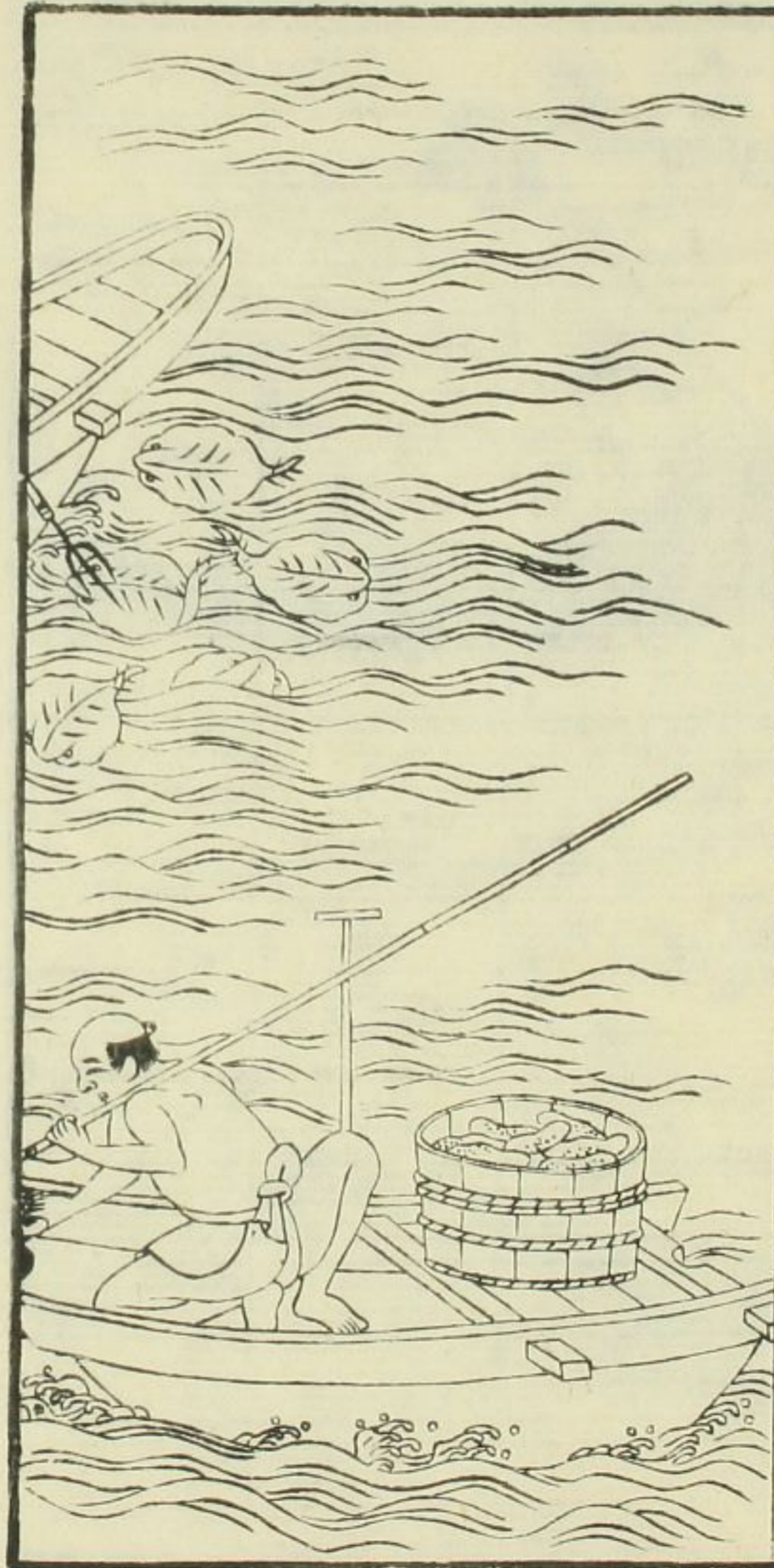


山海經圖會五

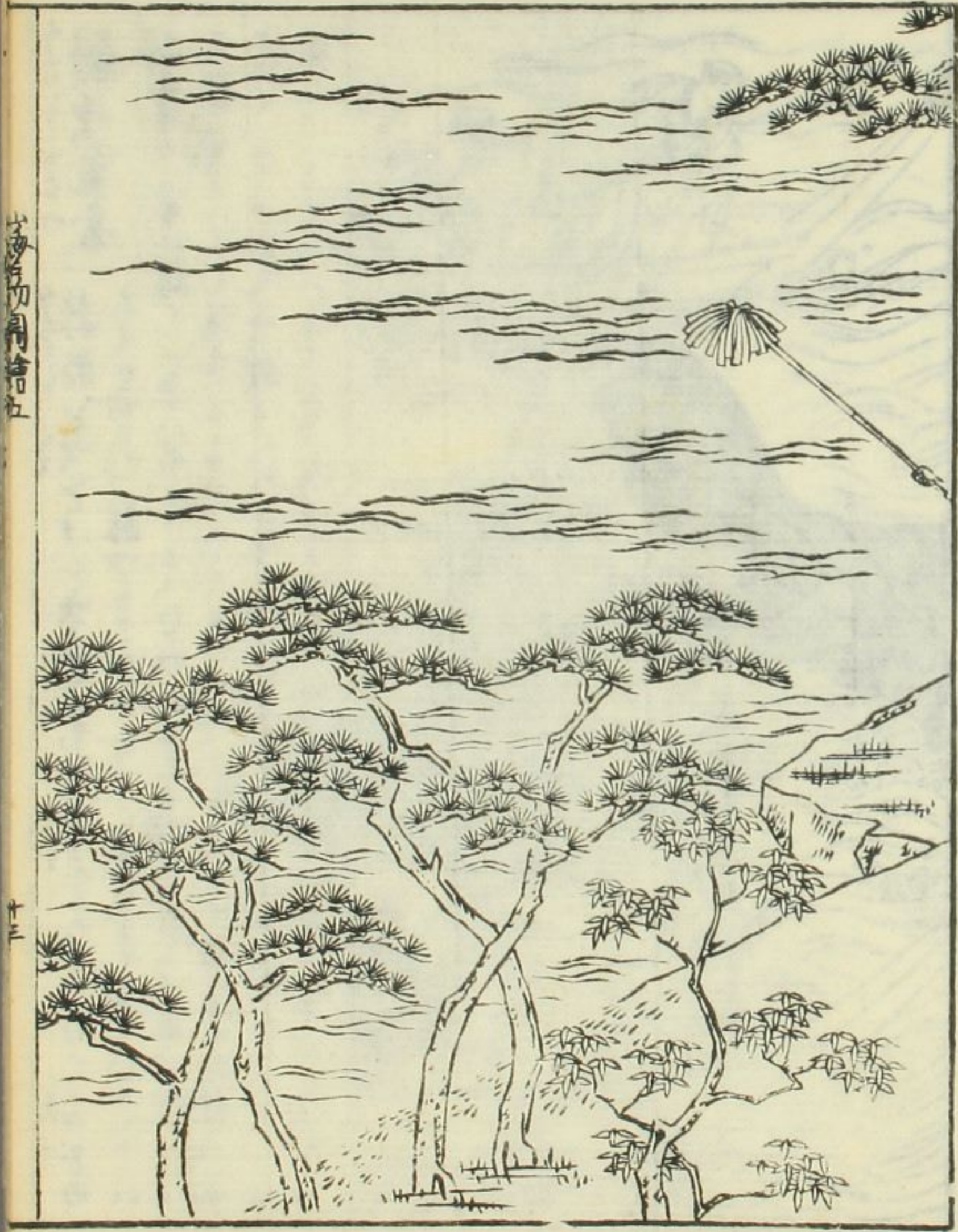


綱網

いづれあてハ大小二網あり大とまをせと云ふとそらだて云は二
 あと二里四がハ引く網と云ふとわがと云ふけづあの中程は
 舟ニ乗らうけてあとの二五ハ下しぬやうなまあかまきよて引く網の
 網は二舟ハまわさうのことして二艘こそ舟よけんばとていりて
 めけぬやうな舟ハ遊者にもくその舟子の字をわいしとていりて
 よてハ総別漁子浦より多くある舟後より出たり名を風車と



赤罽あかき あつあひ
 尾お おき
 海うみ うみ
 これとれよの 漢人よよの... 舟をさしとてきくげんあひ
 多しうたれゆりこれとりのよてつとれありあいの
 くとさせぬ時時よん死まといつうこれとれとれとれとれとれ
 ちまこ鹿子を去漢人これとれよいづらの他とちうくに
 のれてこよりよけてあへんれい海水とこまどくええ
 きくせりこ舟もさかいらまよてきくえかいらぬの柄の付らう小網こ



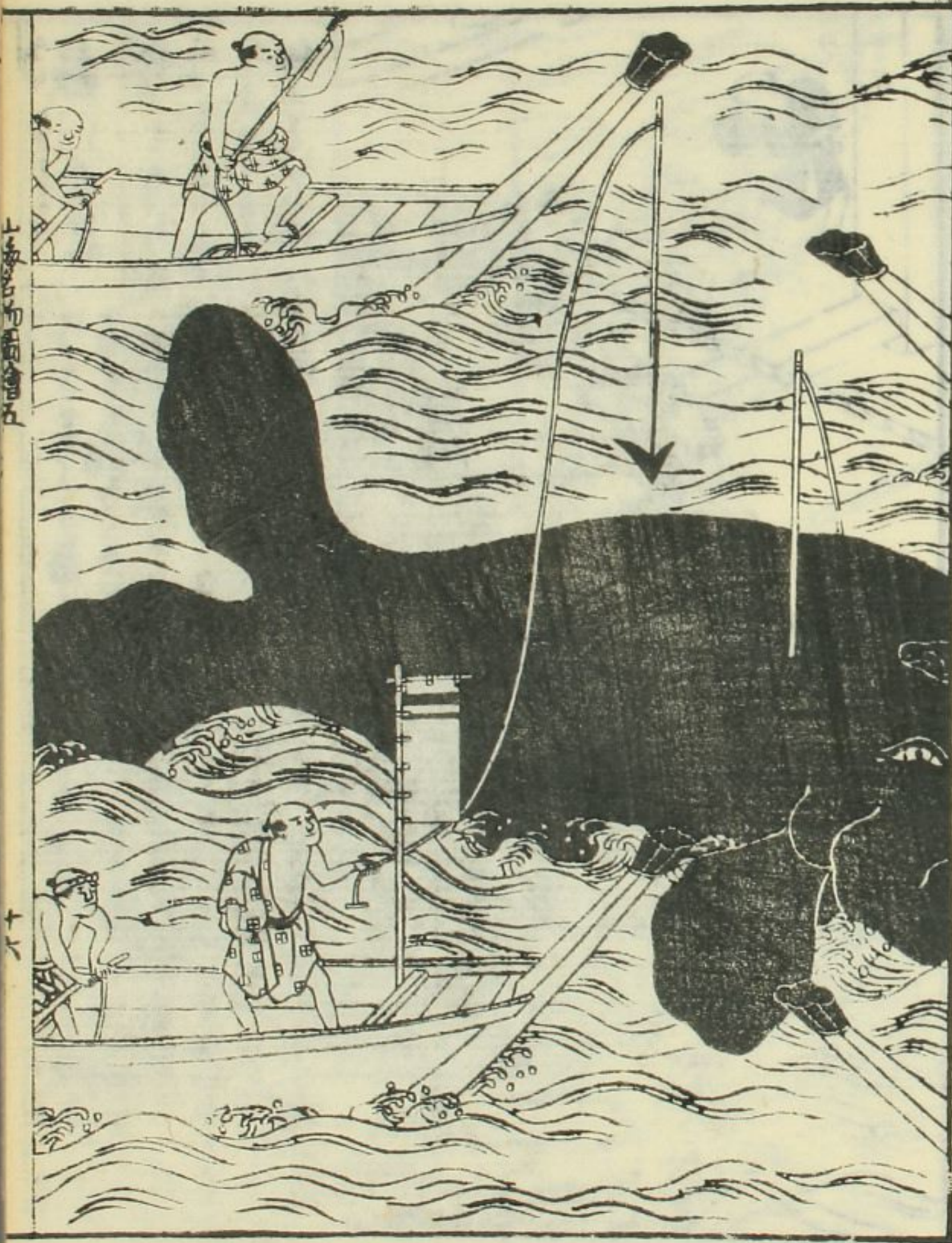
水辺の風景



鯨遠見

古来より海は舟乗りくぐらひの本武より此の今も
 石ハ魚工長谷川先徳海邊まで其の鯨とア
 其の鯨と云ひサリを正とす一から其の身はゆををつくり
 其の月鏡にて焼くとやとえて糸とやゆをいふはこころは
 又種も。さう。小から。まゆ。せ。あぐせと云あぐせハ鯨の
 身一よて三十三のむけからハアつけてもさうな鯨丸は依也

11



鯨船

くらしつと母十太鯨船ごとく一のりりき本船より
 十二本大りりみ本けんを掲げつゆり一のりりと
 けささるる毎日のありのみかよふさかぬさととさる鯨船とみりて
 外船船とさるごとく箱一く五三厘うるもまよまらるといふに
 ようりて死せる母はあつていりといふよとみりらあうまるとて死せること

鯨船

糸川書房
此編よりわける清國の名物名産と兼め考く図とあり
くわく其業と文は濱海内の産物多と知りしむ

畫工

松翠軒長谷川光信

寶曆四年甲戌初夏吉日
寛政九年丁巳初春求板

平瀬徹齋撰

日本山海名産圖會

法橋關月画

完五冊

萬物

此編よりわける清國の名物名産と兼め考く図とあり
くわく其業と文は濱海内の産物多と知りしむ

梶木町渡辺筋

播磨屋幸兵衛

鹽屋長兵衛

鹽屋卯兵衛

浪華書林

心齋橋通南久太良町

同

跋

誹人拵六日末社代よりして和歌の巻に
對するそのハ金沢が中目より人々思存社を
けしめたとて城人おれ中をきりけたげよ
そのふれ心をけくむるのハ是をいふに
是よりくまき者ハは界より日代運留も成

くく其金銀銅鉄其出所其外諸山
山海の七卷世人の所好くきくす
先考平瀬徹齋子孫くきくく
繪畫くを繪師長谷川光信く画圖を
扱て五卷くの如雷を扱くくよのハカ士
たく速敷を扱のへ右に敬をくくくく約後の

皮を特鼻禪く用ゆくく王亮く況く出
僧正坊北條ハ古法眼の夏想く鼻代きく
山物をくくく始ハくく繪空言くく
信せし如事多く今此圖せる亦ハ山海
名物ハきくくハ花玉山川海濱の物産く
世をくくくくを扱くくくく價を扱て

得る所は現在の國を治るるに足れ
り城を人其職分は女を知らざる所
賊軍を討つれば此書世にたゆま
ざるといふ人々存にたもれざるに
返るる
明しく物産は大成を期するのこ

赤松閣平瀬忠重書

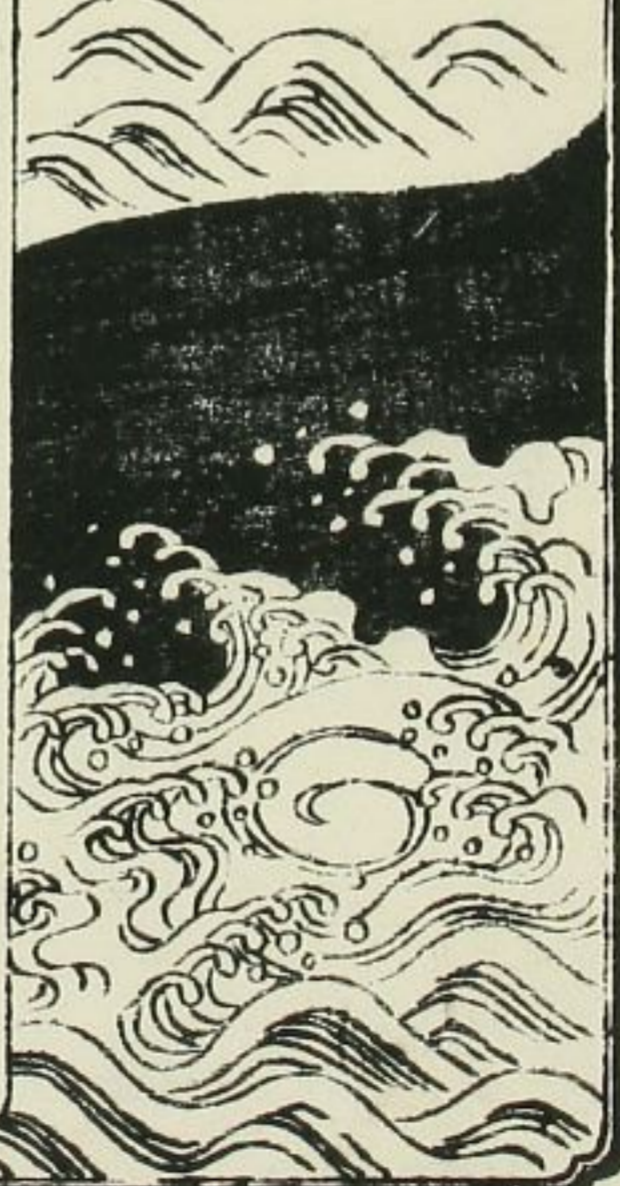
早稲田大学図書館

011688995100

全銀銅鉄の出所仕製并法
 金山川海陸の土産を画写して
 種類を加ふ是各其乃の切考
 あり或ハ其を以てりて形物と
 考へ行由を考へ偏重なきもの

本日

山海名物圖會



日本山海名物圖會